

The Diary of Inoue Masako - the Days of Trial-
ためさるる日



法藏館

井上正子日記 1918-1922

井上迅編

四六判・上製・四七二頁・本体二、八〇〇円＋税

磯田道史

小林エリカ

藤原辰史

二氏の寄稿



Masako, Inoue

月清く星はやさしく出でたの
に何故に我心かく悲みつる
(大正9年10月6日)

京都の町寺に生まれ育った百年前の女学生日記
米騒動、スペイン風邪の大流行も
今日の出来事だった。

うれしくてうれしくて
たまりません。まして
汽車で行くのですから。
(大正七年九月二八日)

〔大正十一(一九二二)年〕
六月二十一日 水曜日 晴 起床六時 就眠十時
〔前略〕／お家に帰って弟に「いちごゼリー
は素的よ。王様の冠のルビーの様に光った。
おいしいのよ。夏休みになったら上げて
ますわ」ってうんと前告れを大きく云う。
弟「姉ちゃん夏休みでなくたって明日で
もかまいませんよ」なんて云っていた。
〔日記本文組版〕

よう子を持ったまま
外へ出て見ると昨夜
から降った雪が二三
寸積って諸々の木は
時ならぬ花が咲い
た。(大正八年二月三日)

お寝坊の正子はもう寝ます。おやすみなさい。

(大正一二年五月七日)

大正の転換期社会にある世の中を
多感な十代の視点で活写する。

私のする一つ一つの行動が私の一生の歴史を作るのだもの(大正一〇年六月一日)

日記目次

- 日記Ⅰ May 1st - Oct. 7th, 1918
大正七年五月一日、一〇月七日
- 日記Ⅱ Oct. 14th 1918 - Mar. 24th, 1919
大正七年一〇月一四日、八年三月二四日
- 日記Ⅲ Apr. 1st - Jul. 5th, 1919
大正八年四月一日、七月五日
- 日記Ⅳ Sep. 7th, 1920 - Mar. 15th, 1921
大正九年九月七日、一〇年三月一五日
- 日記Ⅴ May 1st - Sep. 27th, 1921
大正一〇年五月一日、九月二七日
- 日記Ⅵ Apr. 15th - Sep. 24th, 1922
大正一二年四月一三日、九月二四日

〔著者・編者プロフィール〕
井上正子(いのうえまさこ)

一九〇六年(明治三九)京都市生まれ。生家は下京区の真宗大谷派寺院「徳正寺」。一八年(大正七)、京都市立高等女学校(現京都市立堀川高等学校)に入学。同年五月より日記を綴る(一二年九月)。二六年、京都府立第一高等女学校(現京都府立鴨沂高等学校)を卒業。同年結婚し野田正子となる。九八年(平成一〇)、九十一歳で没。長男は政治学者の野田宣雄。

井上迅(いのうえじん)／犀野良人(とびらのらびと) 一九七一年(昭和四六)生まれ。井上正子の又甥。徳正寺住職。「犀野良人」の筆名で著書に『ポマルツォのどんぐり』(晶文社、〇八年)。

目次より

コラム 1、米騒動と「正子日記」／2、小さな地図にものつけない島、ある遺骨の道案内／3、「正子日記」に見える病の姿、感染症を中心に／4、女学校と女子教育／5、日記の中の新聞

寄稿・インタビュー 正子さんの日記と夏の日と(小林エリカ)／『井上正子日記』について(磯田道史)／正子日記の研究(藤原辰史)／伯母の思い出(井上章子談)

NHK BS7 20年夏放送**英雄たちの選択**(司会 磯田道史)「100年前のパンデミック／スペイン風邪の教訓」で紹介家族の命が平然と奪われてしまった恐怖と悲しみ、そして感染した自身の闘病の模様。百年前の経験から何がくみとれるか。

注文書	
(書店名)	
様	冊
ご担当	
法藏館	二、八〇〇円＋税
井上正子著 井上迅編	
ためさるる日	
井上正子日記 1918 - 1922	
ISBN978-4-8318-7759-8 C0095	
ご住所	
お電話	
お名前	

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp



文学・日記